自分を〝愛でる〟幸せな育児へ

障害児向け肌着を開発

長崎の原村 綾さん

病気や障害のある子供は、身体の不自由さから、市販の子供服では着脱しづらいことがある。そんな毎日の〝小さなストレス〟をなんとかしたい――。自らも障害のある子を抱える原村綾さん（40歳・福治分教会教人・長崎県大村市）は、子供服の新ブランド「medel me」を立ち上げ、大きな子供でも着脱しやすい肌着を開発・販売している。

重度のてんかんと向き合いながら生活する、原村さんと奨くん

長男・奨くん（5歳）は、生後4日で指定難病「大田原症候群（重度のてんかん）」と診断。生後2カ月で受けた脳の手術の後遺症で、右半身まひの寝たきり状態に。てんかん発作は多いときで1時間に40回あり、24時間態勢の介護が必要となった。

3年前、治療に専念するため、家族と離れ、長崎県に親子二人で移住。以来、原村さんは一人で介護に当たっている。

「2歳までの育児の大変さは、普通の子と同じだと思っていた」と話す。ところが、ある日、同じ年ごろの子供が自分で服を着替えられることを知った。「普通の子は成長すれば、できることが増えていく。私の育児は、ずっと大変な状態が続くのか」と感じ、終わりの見えない介護生活に絶望しそうになったという。

そのときふと、苦しみの原因になっている介護内容に目を向けた。寝たきりで片腕にまひがあるため、頭から被せる市販のタイプの服は着脱しづらく、毎日の着替えで生じるストレスは小さくなかった。一方、上下が一体となっている、着替えさせやすいロンパースタイプの服は乳幼児用しかなく、介護服は大人用しかなかった。

原村さんは「毎日の着替えの負担を軽減できないだろうか」「介護用の簡素なデザインでなく、育児が楽しくなるような可愛いデザインの服を作りたい」と一念発起。2018年、奨くんが2歳半のとき、ストレスフリーな子供服ブランドの事業計画を立ち上げた。

〝軽やかな風〟届けたい

製造メーカーなどに話を持ち込むも、「需要がない」と反応は厳しかった。20社以上に断られるなか、佐賀県内の企業の賛同を得て、19年9月、ノースリーブと半袖の2種類のロンパースを発売した。

ブランド名は「medel me」。「愛でる」と「me」を掛け合わせ、「介護者が自分自身を大切にしてほしい」という思いを込めた。

ロゴのモチーフにしたパイナップルにも思い入れがある。親里の高校で学ぶなか、同級生の両親が住むハワイ伝道庁を訪れた際、ハワイの〝軽やかな空気〟が気に入り、現地のパイナップルが好きになった。花言葉が「あなたは完全です」と知り、「障害があることは、何かが〝欠けている〟ということではない」とのメッセージを込めた。

購入者からは「着替えが楽になった」「入院中、点滴をしていても簡単に着替えができる」と好評。長袖の要望もあり、クラウドファンディングでさらに資金を調達し、同年10月発売。現在は食事介助用のスタイを開発している。

◇

昨年12月、奨くんは周囲の人の協力を得ながら、生まれて3度目のおぢば帰りを果たした。

原村さんは「今日まで無事にお連れ通りいただいたことにお礼を申し上げた。障害児を育てる中には大変なことも多く、心を倒しそうになることがある。まずは介護者である親が、なるべくストレスフリーに過ごせることが、子供のためになる。これからも育児の世界に、明るく軽やかな風を吹き込んでいきたい」と、笑顔で話した。

◇

なお、この取り組みは地元のニュース番組でも取り上げられた。詳しい製品情報は公式ホームページへ。http://medelme.com/

袖と前身ごろがマジックテープで簡単に開くようになっている